

## チェックテスト 解答

### 3章 各論：意識・注意・感情の障害への介入

#### 1 意識と注意 (p.69)

①

上行性網様態賦活系が関与する覚醒と、大脳皮質で処理される意識内容。

②

最下層に覚醒、その上層にアウェアネス、最上層に自己意識(自覚)を想定したピラミッド形式のモデル。

③

特定のモノやコトに向かう志向的な意識。「気づく」という働きを含む。感覚や知覚の「覚」に近い。

④

意識内容の一部を鮮明にする働きで、外界に向けては1つの対象に集中する働きのこと。

⑤

持続性(=覚醒)、選択性、転導性、分割(分配)性の4つの機能で構成される。

⑥

情報の保持と処理に関与するアクティブな記憶。目標志向的な課題や作業の遂行にかかわり、中央実行系とこれに従属する3つのシステム、すなわち視空間スケッチパッド、音韻性ループ、エピソードバッファから構成される。

#### 2 意識障害、注意機能障害の特徴 (p.72)

①

- 1) 注意の持続困難に起因する誤り、
- 2) 会話における単語の言い間違い、

3) 思考のまとまりの悪さ、

4) 感情面の異常

#### 3 意識障害、注意機能障害の評価 (p.82)

①

1) GCS (Glasgow Coma Scale),

2) JCS (Japan Coma Scale)

②

1) 軽症意識障害の12項目評価法、

2) Assessment of Awareness of Disability

③

1) 注意評価スケール、

2) Moss Attention Rating Scale 日本語版、

3) Trail Making Test 日本版 (TMT-J),

4) かなひろい検査、

5) 日本版レーブン色彩マトリックス検査、

6) 標準注意検査法 (CAT)

#### 4 意識障害、注意機能障害への介入の実際 (p.87)

①

1) 生活環境の整備、

2) 訓練環境の整備、

3) 課題訓練

②

1) 直接刺激法 (パズルなどを用いた反復訓練)、

2) 行動条件付け法 (行動療法により ADL 向上を目指す)、

3) 戦略置換法 (言語化やりハーサル)、

4) 全般的運動刺激による注意・覚醒の向上 (ラジオ体操など)

## 5 半側空間無視および関連する障害の特徴 (p.94)

①

大脳半球病巣とは反対側から来る刺激に対して、発見・報告・反応したり、刺激の方向へ向いたりすることができない状態。その状態に対して患者は無関心である。

②

- 1) 注意機構に関する異常（汎性注意および方向性注意の障害）,
- 2) 対象の視知覚能力の異常（画像認知障害・一過性の相貌失認）,
- 3) 空間情報についての認知および操作の異常（構成障害・街並失認・道順障害・地誌的見当識障害）,
- 4) 自己身体についての認知の異常（片麻痺無認知・半側身体失認・身体パラフレニア）,
- 5) 感情に関する異常（感情の平坦化・プロソディの障害）,
- 6) 運動に関する異常（運動維持困難・右向き徴候・右同側性本能性把握・過書・pacing障害）

③

- 1) 片麻痺に対する病態失認,
- 2) 半側身体失認,
- 3) 身体パラフレニア,
- 4) 視空間性障害（バリント症候群）

## 6 半側空間無視および関連する障害の評価 (p.100)

①

- 1) Visual Extinction Test,
- 2) Catherine Bergego Scale 日本語版,
- 3) BIT 行動性無視検査日本語版

②

同一患者の継時的变化をとらえられることと「入れ子現象」が確認できること。

## 7 半側空間無視および関連する障害への介入の実際 (p.104)

①

対座法による検査時の反応から、左からの声かけにすぐに正中線を越えて反応する軽度、視覚や聴覚で誘導すれば正中線を越せる中等度、視線が正中線を越えず、追視も右視野内でしかできない重度に分けて考える。

②

視覚探索訓練、プリズム眼鏡を用いた訓練の有効性も確認されているとの報告があるが、現状では機能レベルの改善は汎化しないと考えるほうが一般的である。

## 8 感情とは (p.108)

①

感情とは感覚・知覚・認知・記憶・思考などの活動に伴って生じる「快-不快」を基本とした心（意識）の状態のこと。感情状態のうち、急激に生じて比較的激しい表出を伴う一過性の感情を情動という。情動は、客観的に表出されるもので、行動・臓器の変化として現れる。

②

情動に対して、持続的で強い表出を伴わない感情のこと。

③

行動の変化（骨格筋活動）と自律神経活動（内臓活動）に伴う心理過程の変化が自覚されたもの。具体的には、喜び・怒り・哀し

み・驚き・恐れ・嫌悪など顔面の表情に現われるもの。

## **9 感情障害の特徴 (p.111)**

①

量的には平板化と易変性, 質的には抑うつや躁状態など。

## **10 感情障害の評価 (p.116)**

①

- 1) Zung の自己評価式うつスケール,
- 2) やる気スコア,
- 3) 脳卒中情動障害スケール

## **11 感情障害への介入の実際 (p.119)**

①

- 1) 環境のリセット,
- 2) 行動療法,
- 3) 関心や興味,
- 4) 趣味の重視